

磁器土よまんば!!

第12号
2016年
2月

お詫び 今回2月号として準備をしておりましたが、4月のお届けとなりましたことをお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

2016年1月21日、茨城県工業技術センター窯業指導所にて「磁器土・原料基礎講座」と題し、講演をさせていただきました。科学的視点に基づいて、やきものが出来上がっていく過程で起こる現象について解説をいたしました。

その具体的な内容は次の4つです。

1つめは、当社の紹介を兼ねて磁器土の製造工程をご覧いただきました。有田焼地域の特徴であるスタンパー（キネとウス）を使った磁器土のできるまでを、製造段階の各工程について動画を使いながら説明しました。

2つめに、素地と釉薬の相性についての話をしました。冷め割れや貫入など、焼成後、実際に起きる症状の原因となる素地と釉薬それぞれの熱膨張係数の関係性について、具体的数値を例に出しながら説明をしました。熱膨張係数の数値を把握することで、釉薬と素地と焼成条件の組み合わせの良し悪しを判断することが可能になります。

3つめは、トラブル時の対応事例をいくつか紹介いたしました。例えば、鉄粉（黒い斑点）が出た場合、走査型電子顕微鏡の元素分析機能を使い、その斑点の成分を調べ、その成分をもとにどこから混入したのか推定すること。また、ヘタリや収縮の違いが発生した場合は、原因の一つとして窯の温度計と中の実際の温度が違っていたりする場合があったり、他の原因として粘土の組成に変化が無いかわかるには蛍光X線分析を用いたり、同じ理由で粘土の粒

子の大きさに変化が無いかを見る場合は粒度分析で確認できること、などをお話しました。

4つめは、鑄込み成形についての話でした。泥漿の粘性が収縮に及ぼす影響や、適正な水分量と解膠剤の適正量、石膏型を作製する場合には成形体の厚みのバランスを考慮する必要があることなどを説明しました。

ありがたいことに、この日は40名以上の方がご参加くださり、講演途中や休憩時間などにはたくさんの質問も受けるなど、熱心に聞いていただくことができました。

4月から窯業指導所は、茨城県立笠間陶芸大学校となります。笠間でも磁器土を使う方が増えたということもあって、寺本陶房 寺本さまのご紹介により、この陶芸大学校の県外講師の一人として私も委嘱を受けましたので、磁器土や原料を扱う立場から今後お話をさせていただく機会があるかと思います。

最後になりましたが、お招きいただきました笠間陶芸大学校準備室の佐藤所長、常世田さまはじめ、みなさまには大変お世話になりました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

陶芸大学校のみなさまはもちろん、私どものお客さま方に向けても、さらに有益な情報を提供できるよう努力して参ります。

瀧野直幸

↓ 講演の様子



このような講座や勉強会を各地で開催していくことを計画中です。

■ 社長のブログはこちら ■
<http://www.fromform.jp/blog/>

さがべん 佐賀弁講座

第11回

- さるく・そーつく (訳) 歩く・歩き回る
- えーくらう (訳) 酔っ払う
- ぞーたん (訳) 冗談

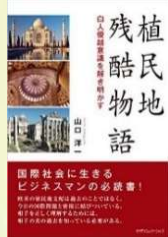


あ〜えーくらうた〜
また飲みなおそうかにや〜
(あ〜酔っばらった〜
また飲みなおそうかな〜)

ぞーたんのごと！
そがん えーくらうまで
どこ そーつくやったとね！
(冗談じゃない！
そんなに 酔っばらうまで
どこを 歩き回っていたの！)



カデロ氏が言うように、いかに自国の歴史を知らないことか。日本の素晴らしさを正しく知り、愛国心を育てていく必要性を痛感



た4人の少年たちはみな九州の出身です。日本を出てからポルトガルに到着するまで、2年半もの月日を要する航海でした。苦難の旅路の甲斐あって、渡欧後はローマ教皇やフェリペ2世など、この時代の輝々たる面々に大歓迎され、ヨーロッパ諸国との文化・文明交流事業を成し遂げることとなります。そんな偉業だったのに「欧州へ渡ったくらいいし知らなかった自分が恥ずかしくなります。」

天正遣欧使節としてヨーロッパへ渡った4人の少年たちはみな九州の出身です。日本を出てからポルトガルに到着するまで、2年半もの月日を要する航海でした。苦難の旅路の甲斐あって、渡欧後はローマ教皇やフェリペ2世など、この時代の輝々たる面々に大歓迎され、ヨーロッパ諸国との文化・文明交流事業を成し遂げることとなります。そんな偉業だったのに「欧州へ渡ったくらいいし知らなかった自分が恥ずかしくなります。」

瀧野直幸



オススメの1冊



いや、今回は2冊です！

します。

『だから日本は世界から尊敬される』マンリオ・カデロ(著)をまず紹介します。日本が持つ伝統や文化、精神性の素晴らしさを紹介するとともに、16世紀末の天正遣欧少年使節の功績を詳しく説明してあります。

『植民地残酷物語』山口洋一(著)です。これを読むことで納得できました。白人優越意識が顕著になっていくのは17世紀以降で、それ以前は、有色人種を見下すことはなかったそうです。

Youtube動画をチェック!

Youtube 瀧野陶磁器原料



その12



ところが道で
とこが田んぼ？

完成!

思うがままに
縫います



吉村

第
12
話



かつていました。水路を流れる水の量と掲かせるキネの本数で回数が変わるため、出来上がり判断は粉の状態を確認していました。水車は他の機械の動力源でもありましたので、大きな力を必要とする機械を動かす際にはキネを止めて、そちらに力を集中させていました。父の頃の話ですが、もやいぐるまだったお隣さんが、自分の工場を止めたくないために、深夜に勝手にうちの工場のスタンパーを休止させ、自分のところの他の機械を動かしていた、なんてこともあったそうです。

湊野義則

その5

洲野 直幸



HP
- 77 -